

変える意志、 変わらぬ信念。

代表取締役社長
嶋本 正



野村総合研究所（NRI）は、おかげさまで創立50周年を迎える。50年前に、野村証券の調査部門と電子計算部門から独り立ちして、今日までの道のりを歩むことができたのは、読者の皆様をはじめ多くの方々の支えがあってこそのことである。厚く御礼申し上げたい。

当社は、創業以来、常に「時代先取りの精神」を抱きながら業務に取り組んできた。1955年には、野村コンピュータシステムの源流である野村証券電子計算部門が、日本で最初の商用コンピューターである「UNIVAC 120」を稼働させた。50年前の1965年には、日本で初の民間シンクタンクである旧野村総合研究所が発足した。さらに1988年には、両社が合併し、日本で初のコンサルティングからシステムにわたるまでの一貫したサービスを提供する会社として誕生し今日に至っている。こういった当社の50年はまさに、「時代先取りの精神」を具現化してきた歴史であるといえよう。

さて、当社は、リサーチ、コンサルティング、システムと大きく3つの事業に取り組んできた。さまざまな情報を収集、調査・分析し、社会や企業の「課題を発見」するリサーチ、その課題に向けて、あるべき姿とそれにつながる「解決案を提示」するコンサルティング、実際の課題解決策として、情報分野で「ソリューションを提供」するシステム、という3つの事業である。この50年間、これらの事業は、社会の変化とともに大きな変遷を遂げてきた。

高度経済成長期の大量生産・大量消費の時代には、各社ともおおむね類似の問題意識を持っており、課題も共通点が多かったため、リサー

チに関しては「マクロ」な内容で十分であった。しかし、現在は、同じ業界の中でも各社の課題がそれぞれ異なるようになり、個別性の強い「ミクロ」なリサーチがますます求められている。

コンサルティングに関しては、事業環境変化に対応するための事業戦略や経営改革など、目指すべき方向を検討・提示することが引き続き強く求められている。さらに現在では、それらの戦略や改革などをどのように実施するかという点に関心が移ってきている。つまり、「What」だけでなく「How」も要請されるようになっているのである。

システムに関しては、当初、いわゆる合理化で人間のオペレーションを「効率化」することにより、いかにコスト削減効果を生み出せるかという点に焦点が当たっていたが、現在は、情報の「見える化」により、的確なマネジメントやマーケティングにつながるソリューションを提供することが期待されるようになっている。

ここまで、当社の3つの事業の現在までの変遷を大雑把に紹介した。ではこの先、社会とその中における当社はどのような変化をしていくのか、大胆に50年後を予想してみることにする。

まず、社会の変化を想像してみる。「多様化・多層化」が一層進み、複雑化し、何事にも判断の選択肢の幅が広がるのは、間違いないであろう。また、国と地域、公共と民間、提供者と利用者といった境があいまいとなる「ボーダレス化」も進むであろう。そして、「変化のスピード」がこれまでの50年とは比べ物にならないほど、大きくなるものと思われる。

さて、当社の3事業はこのように変化する社会にどう対応していくべきか。リサーチに関し

ては、従来の「マクロ」、そして「ミクロ」から、「超ミクロ」が求められるようになるであろう。各社個別に留まらない、その先にある利用者・生活者ひとりひとりの振る舞いについてのリサーチである。コンサルティングに関しては、課題解決策における「What」、それに加えての「How」に続き、顧客の関心は「Result(成果)」に移っていくと予想されるため、これに応える術が求められるであろう。システムに関しては、ソリューションによる「効率化」「見える化」に続き、「共創」に期待が移ると想定される。IT(情報技術)の進展により、システムが人間の知的能力に取って代わる範囲がますます増えていくため、人とシステムの役割分担を見据えた共同作業のあり方に焦点が移っていくように思える。

これらは、あくまで想像の域を出ないが、当社の3つの事業が、時代の変化に対応しながら、皆様のお役に立ち続けられるよう邁進していきたい。

最後に、当社の創立50周年のキャッチフレーズ「変える意志、変わらぬ信念。」をご紹介したい。

「変える意志」は、理想の姿、目指す姿を社会やお客様とともに考え、それに向かってともに変えていこう、そして当社自身も変わっていこうという「意志」である。「変わらぬ信念」は、50年間、連綿と引き継がれてきた創業の精神(DNA)を大切に、「時代先取りの精神」「顧客第一の精神」「品質へのこだわり」を旨とする当社の使命を全うしていこうという「信念」である。今後とも、社会やお客様の期待に応えられる企業であり続けたいと考える。

(しまもとただし)